

「振り返り」から授業を構想する！

中学校では本年度から道徳科が全面実施されています。道徳科では、「考え・議論する」授業づくりが求められます。

【資料名】「裏庭のできごと」

【本時のねらい】 誠実な言動の大切さやよさに気付くことで、自ら判断し、誠実に実行しようとする心情を育てる。

ロールプレイを取り入れたおかげで、生徒たちはよく発言していたな。



でも、今日の授業で、本当に子供たちの考えが深まったと言えるのだろうか。

授業が終わった後の3人の振り返りから考えてみましょう。



【Aさん】ガラスを割った3人中で、雄一だけが罪をかぶっていたのが許せません。こういう関係は本当の友だちとはいえません。

【Bさん】今日の学習で、自律の精神を重んじ、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつことが大切だと分かりました。

【Cさん】最後に健二も大輔も自分の過ちを認め、正直に話すことができたので、とてもよかったですと思いました。

Aさんは資料の読み取りで、Bさんは価値理解で終わってしまっています。Cさんは感想は書けていますが、自分ごととして捉えられていないのが残念ですね。

では、生徒がどんな振り返りを書けばねらいが達成できたと思定されますか？

目標に示されている学習活動をもとにして、振り返りの具体を想定してみましょう。

「特別の教科 道徳」の目標

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、**①道徳的諸価値についての理解**を基に、**②自己を見つめ**、**③物事を広い視野から多面的・多角的に考え**、**④自己の人間としての生き方についての考えを深める**学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳科の目標である道徳性を養うために設定された学習活動を、①～④の番号で示しています。

これをもとにして、授業後に生徒にどんな振り返りを書いてほしいかを具体的に考えて、ゴールイメージをつくってみよう。

【ゴールイメージ(振り返りの例)】

②私が健二の立場だったら、ガラスを壊したことは黙っていると思います。もう終わったことだし、時間が経ってしまって余計に言い出しにくいからです。③でも、ロールプレイで正直に言えた時のすっきりとした気持ちを体験して、やっぱり卑怯な自分のまま過ごすのは嫌だと思いました。さらに、罪悪感をもったまま接すると友だちとの関係も悪くなるという意見を聞いて、とても納得しました。①今日の学習で、**善悪の判断をきちんとして、誠実に行動しないと、その結果に責任をもつことができないということが分かりました。**④これからは、楽な方に流されないように、自分の判断に自信をもって行動できるようになりたいです。

振り返りの具体をもとに、発問や構成を考えてみましょう。

悩みながらも正直な行いをするのを決めたのはどうしてなのでしょう。

その場はよくても、後で分かったときに大変だと思ったからじゃないかな。

それ以上に、自分自身が許せなくてもやもやしたり、雄一と普通に話せなくなったりするからじゃないかな。

授業を構想する際には、まずはねらいを達成した生徒の具体的な姿を想定してみましょう。生徒がどのような思考をたどってその姿に到達するかを逆思考で考えることによって、より効果的な発問の設定が可能になります。